

きらり チームほおの木

<笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい>

令和3年1月29日(金)
文責 伊藤 博子

新たな年を迎えて

令和3年が始まりました。始業式の日、登校する子どもたちにごう聞いてみました。「冬休みは楽しかったですか？」

皆、満面の笑みで、

「はい！楽しかったです。」

と、答えていました。中には、

「先生、僕は宿題を頑張って全部終わらせた。」

と、自信たっぷりに言う子もいました。また、

「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。」

と深々と頭を下げる子もいました。まだ、教室に

入る前だったので、担任の先生に、

「校長先生に会ったら、こう言うのですよ。」

と、教えられたわけでもないようです。(この子のおうちでは、お正月にきちんと家族で新年のあいさつをしているのだろうな。)と思いました。新学期早々から元気に頑張り、礼儀正しく挨拶できるほおの木っ子に会えて、とてもうれしくなりました。

ほおの木っ子は、冬休み中の保護者の皆様の健康管理により、元気に登校しています。学校ではこれからも、新型コロナウイルス感染症予防に努めてまいりますので、今学期もどうぞよろしくお願いいたします。



ほのぼの

<その1>

先日、人権教室を行ったときのことで、人権擁護委員の方が人権について劇や歌などで1年生にもわかるように説明してくださいました。人権擁護委員の方がこうおっしゃいました。

「人権とは、一人一人が持っているものです。みんな楽しく元気に生きることが大切です。」



みんなの中にも人権の種があります。お友達を思いやり、優しくしてあげると、その種がどんどん大きくなり、芽を出し、ぐんぐん大きくなってきれいな花が咲きますよ。」

その時、担任の先生が、

「みんなは、このお勉強の前よりもその種が大きくなっているようです。自分の胸に手を当ててごらん。」

と、言うと、子どもたちは自分の胸に手を当てて、口々にこう言っていました。

「本当だ。大きくなってる。」

なんて純真な子どもたちでしょう。ほっこりしました。

<その2>

スキー学習が始まりました。それぞれの学年で、まずは、校庭やほおの木山で練習をしています。ある日、4年生の準備の時に微笑ましい場面を見ました。女の子が、男の子にスキー靴を履くのを手伝ってもらっていました。たまたま隣にいた子に助けてもらっていたのだろうと見ていると、履き終わった女の子は、男の子に何か言うと(お礼?)5メートルほど離れた場所に置いてあった自分のスキーのところに戻って行きました。ん?ということ、女の子はわざわざその男の子のところに行ってスキー靴を履かせてもらったということです。頼り頼られるととてもいい関係があることがわかり、ほっこりしました。

